

令和3年度 世界へのトビラ事業勉強会 開催報告

1. 日時 令和4年3月4日（金）
1部（アドバイザー勉強会）10：00～12：00
2部（外国人講師勉強会）13：30～15：30

2. 会場 オンライン各所（ZOOM使用）

3. 参加者 1部 アドバイザー：11名
2部 アドバイザー：8名 外国人講師：14名

4. 開催内容

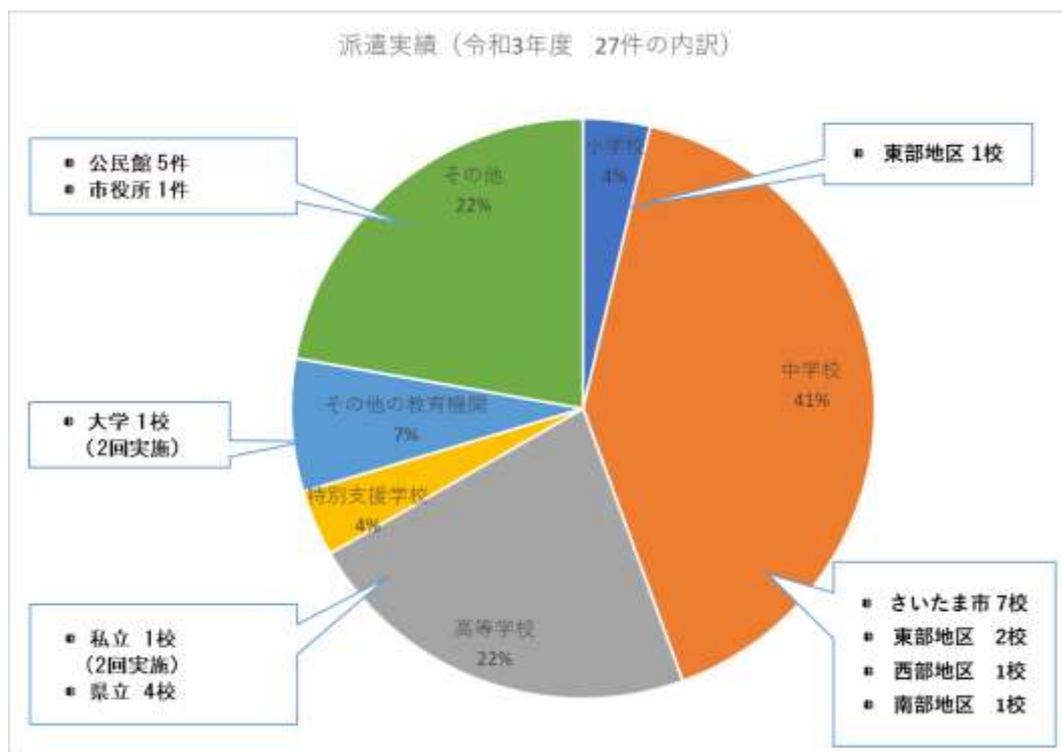
【アドバイザー勉強会】

時間	内容
10:00 ~ 10:10	令和3年度の事業実施結果報告
10:10 ~ 10:50	自己紹介 ・世界へのトビラ事業の経験 ・普段の活動及び自身のバックグラウンドについて ・経験者→本年度の感想や改善案等 未経験者→心配事や気になること
10:50 ~ 11:50	事業実施についての意見交換 ・コロナ前後での変化を踏まえての情報交換 ・困っていることや改善案の共有
11:50 ~ 12:00	まとめ

【外国人講師勉強会】

時間	内容
13:30 ~ 13:40	令和3年度の事業実施結果報告
13:40 ~ 15:00	自己紹介 (講師) ・出身国 ・小中高校などどんな場所で活動しているか ・必ず話をすることや反応が良い体験活動について (アドバイザー) ・世界へのトビラ事業の経験の有無 ・どんなサポートをしているか
15:00 ~ 15:25	事業実施についての意見交換 ・困っていることや改善案の共有 ・質疑応答
15:25 ~ 15:30	まとめ

令和3年度 トピウ事業実績報告（午前・午後共通資料）

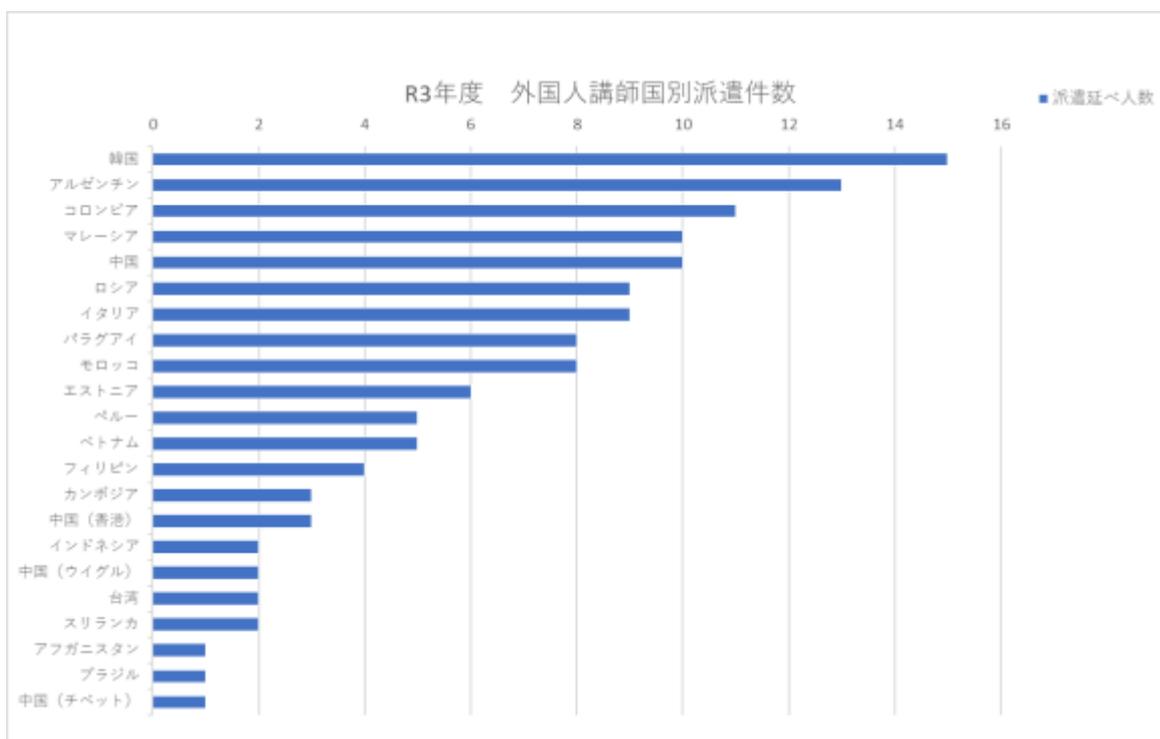


本年度の実績は27件。コロナ禍2年目という事もあり、昨年より多少の件数アップはあったものの例年に比べれば件数はかなり少なかった。また、リピーターの学校からの依頼が中心となった。その中で、大人数での派遣希望が多かったこと、SDGsや社会問題をテーマにしたワークショップ形式の授業展開の希望があったこと、について説明した。またコロナ禍においても公民館等で調理実習を通しての交流希望があったことは、どんな状況でも国際理解教育への必要性が感じられる依頼内容だったことが伺えた。

講師登録状況と国別派遣実績



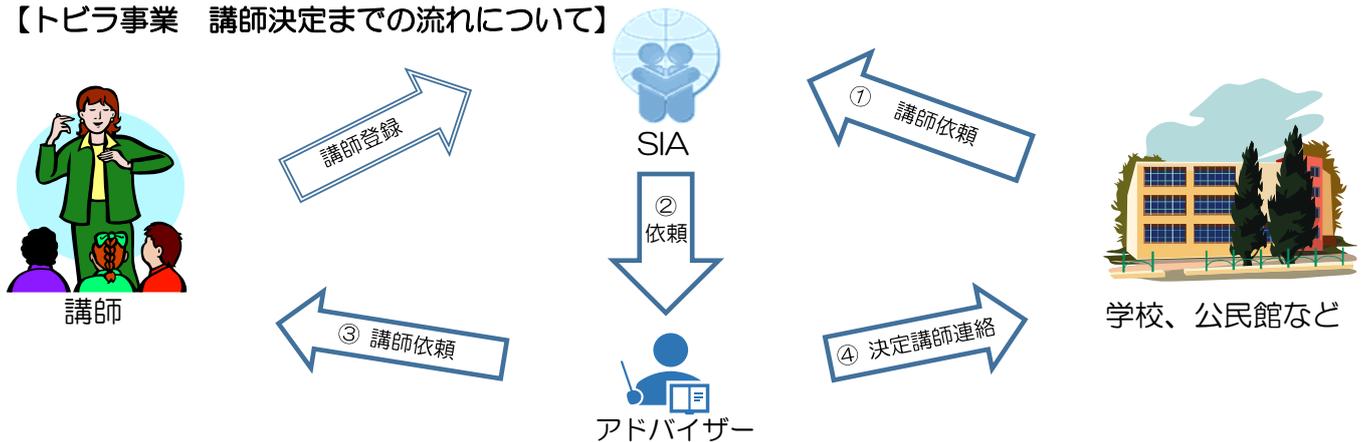
埼玉県にはアジア、中南米出身の方が多く在住外国人として暮らしている。そのため登録状況もそれに比例していることが分かる。



現在の講師登録者状況は、外国人講師 104 名、日本人講師・アドバイザー 66 名。昨年に引き続きコロナ禍ではあったが、22 の国と地域の外国人講師に協力いただいた。また、スリランカ、フィリピン、ベトナム出身の外国人講師が 6 名、アドバイザーは 8 名が新たな仲間として加わった。講師・アドバイザーの募集は随時行っているので、ご紹介いただける方がいたら、ぜひ事務局までご一報いただきたい。

アドバイザー勉強会（要旨）

【トビウ事業 講師決定までの流れについて】



- ① 講師依頼について基本的には「申請書」で講師派遣依頼がある。ただし、SIA（埼玉県国際交流協会）へ事前問い合わせがあった場合、開催時期の相談・派遣講師について（日本人講師/外国人講師）・授業のやり方など相談に応じて申請へつなげる。
- ② 「申請書」が届いたら、SIA がアドバイザーを決定し依頼。アドバイザーは依頼者の意向をくみ取った打ち合わせを行う。
- ③ アドバイザーは打ち合わせをもとに講師選びをして講師依頼。
- ④ 決定した講師についてはアドバイザーより依頼先へ報告。

以前は費用を協会負担で講師派遣を行っていた時があったが、現在はすべて依頼者負担で派遣を行っている。依頼目的や意向に寄り添った実施でいかに満足につなげられるか。そのために、SIA はどのような協力ができるかということがいままでより大切になったと感じる。アドバイザーに講師選びをお願いしている中で、依頼者の要望に添うための講師選びは今後の大きな課題と考えられる。

【要望・ニーズの変化等】

◆パワーポイントの使用を希望する講師の増加。

写真や物を紹介するためのツールとしてパソコン等を使って準備する人が増えたと感じる。ただし、学校によってはまだパソコンの台数が講師の人数分確保できない、または接続の問題で当日使用できないなど、環境面での心配はまだあると感じる。

それを踏まえて、状況に応じてパワーポイントを使わないでも授業ができるようにアドバイザーは講師をフォローしていく必要がある。

◆学校から特筆される要望がない。またはリピーターの学校で「昨年と同様に」という場合がある。

例えば、よく依頼をいただくスタイルとして「1つの教室で講師2人から話が聞きたい。時間を入れ替えてお話をしてほしい」という形式がある。実際終えてみると、生徒の中で国の情報がごちゃ混ぜになっている。また講師の立場に立つと、他の講師が話した後に話すのはやりづらいという意見もある。そこで、時間を2時間分いただけるのであれば講師を入れ替えて話を聞くのではなく、1時間を全体会、もう1時間は各クラスに分かれて1人の講師の話をじっくり聞くというような授業形式の提案を学校との打ち合わせで伝えている。リピーターの学校でも担当の先生は毎回違うので、提案することについては受け入れてくれることも多い。新規依頼、リピーターに限らず学校、生徒、講師にとってより良い提案をアドバイザーから働きかけることは必要だと感じる。

◆学校から細かすぎる要望が続く。

小学校で体験学習の内容について、細かい指定や要望が続いたことがあった。先生がネットで調べた情報を元に依頼してきたが、実際は大昔の遊びで現在の子どもはやらない体験活動だった。先生方の授業への期待度や受け入れに対する温度感は様々。要望全てを取り入れるというよりは、アドバイザーとしては、折衷案をまとめるという役割で交渉していただくことも時には必要となる。

◆当日の教室について。

たくさん的人数で訪問した学校で、当日講師が授業をする教室の環境が違いすぎたことがある。通常の教室の人もいれば、椅子も机も固定の調理室のような場所だった人もいた。コロナ禍の現在、ソーシャルディスタンスに配慮した教室選びを学校でしていることが多いと思う。講師の授業内容に合わせていけばそれでも問題ないが、ダンスなどの体験活動をするような場合には教室のレイアウトは重要。事前の打ち合わせで、すり合わせておくことが大切である。また、当日アドバイザーが各教室を見て回るためにも教室の配置図は事前にもらっておくとスムーズだと感じた。

【質疑応答】

◆外国人講師のカルテのようなものはありますか？

これからアドバイザーを担当するにあたって外国人講師の方を知らないといけないと感じた。事務局で各外国人講師がどんなことができるのかをまとめたものがあればほしい。

→講師の方たちの情報については、1年に1回の更新確認を含めて一覧にまとめて事務局で管理はしているが、ペーパー資料としてお渡しできるものは作成がない。講師選びは、開催日時はもちろん講師の得意分野や依頼先の求める要望とのマッチングなど複合的に考えてアドバイザーの皆さんは声をかけをされていることが多いと思う。新しい方は講師情報がないところからスタートなので不安があると思うが、事務局が情報提供をしながら1つの実施を一緒に進めていくので安心して臨んでほしい。

◆依頼先の要望が分かるような過去資料はありますか？

→基本的には、依頼先から提出してもらっている「申請書」に記載のある依頼内容を確認してほしい。リピーターである依頼先については、過去の「報告書」があるので、事務局で管理しているものを共有することが可能。是非参考にしてほしい。

また、一緒に行く講師が去年も担当していたという事が多々あるので、講師に聞くのが一番わかりやすいと思う。

◆打ち合わせについて

講師、学校との3者で行うことがありますか？

→基本的には講師と学校の間立つのがアドバイザーなので、講師が学校との打ち合わせをすることはない。アドバイザーと学校が打ち合わせた内容を講師へわかりやすく伝えて当日までの準備をする。アドバイザーには打ち合わせに係る交通費や通信費を上乗せして謝金を設けているが、講師には当日の謝金と交通費しか支給されないの、打ち合わせへの参加は想定していない。

打ち合わせの場所はどうしているか？

→コロナ前は学校を訪問して打ち合わせを行うように事務局から推奨していたこともあった。学校までの経路の確認や教室の状況の確認、PCなどの接続状況の確認等、訪問することで事前に確認できることも多い。ただコロナ禍の現在は電話やメール、オンラインなどを使って打ち合わせをするアドバイザーが多いようだ。学校の場合は特に忙しい先生が多いので、訪問を望まない場合もあるので臨機応変

にするようにしているという意見が多数。また、外国人講師との連絡も、お仕事をされている方が多く、資料のやり取りをすることが多々あるため、メールでやり取りをするアドバイザーが多かった。

【コロナ前と後の違い】

◆体験学習の様子・ICTの活用について

コロナ前はせっかく講師が直接話をしに行くのであるから、パワーポイントは極力使わずに直接的な生の体験、生の話を重視していた。現状についてはどうか？

依頼要望の多い体験学習については、コロナ禍の現在は民芸品や写真などを回して見せることができなかつたり、衣装の試着体験をすることもダメな学校もあるので、代表生徒1名だけが体験したり、講師からみんなに見せるという方法を取るように変化している。

そのような中で、パワーポイントは写真だけではなく映像を見せることができる強みがある。広い部屋でソーシャルディスタンスを取って話を聞くような場合も多いので、やはり大きな画面で様々なものを見せることができるメリットは大きい。また、テーマが決まっている授業を担当した時は、パワーポイントで内容をまとめて、話したいポイントを伝えるのには有効なツールであると感じる。

最近の子どもは、通常の学校授業の中でパワーポイントが使われていたり、オンラインでの体験も増えてきていると感じるので、画面を通して何かを見たり感じたりすることを以前よりは受け入れやすくなっていると思う。

ただ、講師の力量によってパワーポイントの使用方法も様々なのが現状。まったくパワーポイントが使えない、または使わないという講師もいる中で、トピラ事業において今後どのようにパワーポイントを含めたICTを効果的に活用するかについては課題である。

ただし、パワーポイントが使えない講師がダメな講師というわけではなく、使わなくても授業ができることは逆に力のある講師という事が言えるので、そこを勘違いしないようにして進めていきたい。

ICTの活用という事では、人とのつながりを感じられるような展開にすれば、オンラインで授業をすることをもっと活用していいのではないか。例えば事前に質問事項をもらっておいて当日オンラインで意見交換をする。1つの質問に対して同じ出身国の講師でも考えが違ふというような多様性を学ぶ等。違ふ視点からの発見はオンラインでもできるのではないかと思う。

◆講師選びをどのようにしているか。

アドバイザーの中でも、持っている講師情報の差はあるが、まず大前提としては小中高など依頼先の内容や要望を考えて講師選びをしている。その中でもレスポンスがいい人、SIAの研修参加講師には声掛けを優先的にする等の意見があった。逆にコロナ禍で心配している講師には声掛けを配慮することもあり、講師の状況も様々変化するので、SIAと相談しながら講師選びをしているというアドバイザーが多数。コロナ禍の現在では、より講師選びのハードルが高くなっていて、選ぶ基準も多様化しているのかもしれない。午後の研修で参加講師に普段どんなことをお話しているか、どんな体験活動をしているか聞く時間を設ける予定。依頼先の要望と講師のマッチングを考える上でもこういった研修の機会も参考にしてもらえればと思う。

全く初めて一緒に行く講師は不安があるという意見はどのアドバイザーも共通して思うところだと思うので、今後もっと講師とアドバイザーが交流できる場が提供できるように事務局としても考えていきたい。

◆学校の要望と講師の思いの両立、マッチングについて

どの外国人講師にも「自分の国をもっと知ってもらいたい」という思いがまずあるのではと感じた。今後は学校からの要望も踏まえつつ、講師のそのような思いを取り入れられる授業の場を提供していきたいと感じた。

学校の要望と講師のマッチングの難しさとは？

決められている時間の中で、国を紹介することがまず難しい。時間があればいくらでも話ができるので、限られた時間の中でいかに学校の求めているポイントを押さえて話ができる講師を選ぶかがマッチングのむずかしさなのではないか。

小学校・中学校・高校・公民館など場所によって求めているポイントが違う。例えば小学校であれば遊びを入れて体験学習を中心にしてほしい、公民館では大人を対象に人権について考える等、講師にどんな話をしてもらおうのかを、申請書の内容から具体的に絞ってあげることがアドバイザーには必要だと感じる。

大切なことは、どこからの依頼であったとしてもインターネットで調べられるようなことではなくて、自分の生活してきた経験等について話すよう、講師にアドバイスをしている。講師が行くことの意味は、「調べてわかることがすべてではない」ことを伝えることができることだと思う。それが「世界へのトビウ」事業の強みだといえる。

講師が「自分の国を知ってもらいたい」という思いの先には、自分の国の文化を知ってもらう事をきっかけにして、多様性を認める子どもに育ててほしいという思いがあるのではないだろうか。それが伝えられることもこの事業の大きな強みなのだと思う。

【その他意見】

◆1年に1回ではなくてこのように集まれる機会がもっと必要。講師とも交流できる場がもっと欲しい。コロナ禍という大変な時期ではあるが、こうしてオンラインで気軽につながれるという発見があったのはよかった。S I Aとしてももっと交流の場、そして学びの場という機会を作れるようにしていきたい。



外国人講師勉強会（要旨）

【外国人講師による授業でのトピックスについて】

- ・自分が母国で体験した話。（ 出身地、衣食住、気候、言葉、遊び ）
- ・日本に来て感じたことを話す。

食に関する話は盛り上がることが多いと感じている講師やアドバイザーが多かった。どの講師も母国から日本に来て今があるので、その中で感じた様々な経験を、その時々テーマに沿って伝えようと創意工夫をしていることが伺えた。特に、多様性への理解へ繋がるように考えて話をまとめている講師や、世界へ目が向くように話を構成している講師などいて、短い時間の1回の授業でもそれをきっかけに次につながるような働きかけとなる授業展開を組み立てていることがわかった。

【体験活動の内容について】

- ・クイズ（自分自身のこと、国についてなど）
- ・手遊び（じゃんけんや歌に合わせるものなど）
- ・小道具を使った遊び（ヌンチャク、ゴム飛びなど）
- ・民族衣装・アクセサリーの試着体験
- ・歌（みんなが知っている歌を母語で歌う）→言葉の体験に繋がっている。
- ・楽器
- ・文字・言葉体験（母語で数字、挨拶、自分の名前を書いてみるなど）
- ・スパイスや飲み物、食べ物を体験（食べてみる、飲んでみる、嗅いでみる）

コロナ禍の現在、体験活動については、今まではできていたことでも、できなくなっていることもある。特に食べたり飲んだりすることには制限がかかってできなくなっている。

クイズは非常に多くの講師が取り入れていてコロナ禍だからこそ、答え方の工夫が多く見られた。

【困っていることの改善策】

◆生徒の反応がない。

- ・先生を巻き込む
- ・特に日本の中学生や高校生については、恥ずかしがりやが多いし、そういう年頃でもあるので割り切る気持ちも必要だと思う。
- ・生徒の反応がいいからよい授業、ないから悪い授業ということではない。学校が希望する要望をきちんと取り入れて話を組み立ててほしい。それが今後またお願いしたいという依頼に繋がって、さらにトピックスの体験者を増やしていくことにもつながっていくと思う。
- ・その場で反応がなくても、あきらめずに話を続けてほしい。

事業終了後にもらう生徒からの感想文を読んでも、その場での反応は小さくてもたくさんのことを生徒が感じていることがわかる。短い時間の中でも、必ず何かしら印象には残っていてそれが未来で外国と関わるときのヒントになったり、役立つ経験になっていると信じてお話ししてほしい。

◆事前のリクエストや質問が欲しい

後でもらう感想文の中でもっとこんなことが聞きたかったということが書かれていたことがある。前もってわかっていたらそれも入れた話ができたとと思う。

文化紹介といっても限られた時間の中で話をするには広すぎるテーマだと思う。もっと的を絞ったテーマがあれば話を組み立てやすいと感じている。

- ・アドバイザーは依頼先との事前打ち合わせで内容を深掘りしたうえで、講師への絞ったテーマを伝えることが大切。これについては、まさに今日の午前中のアドバイザー勉強会の中でも話が出ていた。今後は改善されていくことに期待。

- ・事前質問については用意しないでと伝えている。

最後に質問をしなくちゃと思ってドキドキしたまま授業を受けて、話を聞かない生徒もいる。また事前に考えた質問は講師がすでに話の内容に盛り込んで話をしていることも多い。調べればわかるような基本的な質問も多いと感じる。講師の話は質問を全部解消するのではなくて余韻を残すくらいの内容でもいいのではないかと感じる。話を聞いて出てきた疑問や質問だったかもしれないので、それだったらそれは上手くいった授業の証拠と思うようにしてほしい。授業が終わった後に自分で調べてみようと思う。そういう行動へつなぎ、未来へつなぐことができるのもトピウ事業のいいところだし、まさに強み。

◆日系なので、期待されている外国人講師とは違うのではと感じている。

- ・日系の人はそれが売りなのだと感じてほしい。外国の人＝金髪の人というのは今の時代違うと思う。多様性を認め合うことを伝える上でも強みに感じてほしい。ナニ人なのではなく、私は私。それがいいのだと思う。

【質疑応答】

◆講師依頼の連絡を講師の皆さんはどう思っている？

挙手方式で確認。うれしい！！やりたい！！待ってました！！の講師がほとんど。

すんなり挙手できない理由は、仕事などの兼ね合いや時間や場所などの懸念がある為。アドバイザーの方はまずは気兼ねなくお声掛けしてほしい。

◆アドバイザーのサポートがあって助かったこと。

全体会を導入してくれたこと。初めての授業で緊張していたが、始めにみんなでの会があることで各クラスに入ったときに生徒の気持ちがほぐれていたと感じた。

◆アドバイザーの方が講師を決める基準について

アドバイザー勉強会でも話し合ったテーマ。基準は多様化しているので一概には言えないが。

- ・依頼先からの国の指定に沿って
- ・研修会に参加するなど、意欲を感じる方を積極的に
- ・バランス

年齢、男女、出身国（埼玉県在住外国人に合わせてアジア、南米中心等）、小中高などの依頼先の内容に対応できるかどうか

- ・レスポンスをきちんとしてくれるかどうか

- ・S I Aと相談して決める（講師の住所や活動可能日時、お話しできる事の確認を含めて）

S I Aとしては登録してもらっている以上、アドバイザーも含めて講師には全員に公平な機会があることが望ましいと考える。ただし、依頼先が費用負担をしている以上交通費を含めた実施場所との兼ね合い、実施日と活動できる日の兼ね合い等、様々な縛りもある中、担当依頼をしているのが現実。平等な機会を今後も提供できるように、具体的な改善案については皆さんとの話し合いを定期的に行う中で見つけていけたらと考えている。

【まとめ】

アドバイザー、外国人講師ともに重なる疑問点や、もっと時間をかけて議論すべきテーマを感じる勉強会となった。学校からの要望を的確に講師に伝えるためにはどうしたらいいの。アドバイザー、外国人講師ともに、より多くの登録者に平等に活動の機会を作るにはどうしたらいいか。パワーポイントの有効な使い方について学びあう機会の必要性など。

新しい方、久々に活動する方、ベテラン、様々な立場から意見交換することができた貴重な時間となった。コロナ感染拡大を受けて今までやってきたことに変化を加えなければいけなくなったことも多くあり、やりにくさを感じるものが少なからずあったと思う。そんな中でもこうしてオンラインという便利なツールが普及したことで、1年に1回ではなくもっと気軽に集まれる機会を設けることができるようになったことを活かして、事務局としては、今回のように必要とされる情報交換の場を今後もっと提供できるようにしていければと思う。

